



## 世界経済のトレンド丸解り！今週の注目レポート



このコーナーでは、フィナンシャル・インテリジェンス部に配属された新人のルミが「世界経済の今・そしてこれから」を把握するために是非読んでおきたい、今週の重要レポート・ニュース記事を紹介します。（原則月曜日更新）

「部長、おはようございます！」

「榎原君、おはよう。今週のポイントは？」

「FOMC(米連邦公開市場委員会)や日本銀行の金融政策決定会合の終了直後で材料難ですが、米国では住宅指標やCPI(消費者物価指数)の発表が予定されています。日本では、CPIの発表が予定されています。あとは、日経平均が2万円を回復できるかに注目したいところですね。」



### 今週の注目レポート・重要ニュース

重要イベント終了後で材料難のなか、日経平均が2万円を回復できるかに注目

■経済指標や重要イベントなど

#### 【1.米国】

先週の米国株式市場は上昇しました。18日に発表されたFOMCの声明を受け、FOMCが利上げを急いでいないとの姿勢が市場に伝わったことが好感され、ダウ平均は1万8000ドルの節目を、ナスダック総合指数は5,000ポイントの節目をそれぞれ回復しました。

#### 1-1. FOMC

3月18日に米連邦公開市場委員会(FOMC)の声明発表が行なわれました。事前の予想通り金融政策の正常化について「忍耐強くいられる」という表現が削除され、代わりに「労働市場のさらなる改善が確認され、中期的にインフレ率が2%目標に戻ると合理的な確信が持てたときに」利上げが行なわれるとの表現が採用されました。声明と合わせて発表されたFOMCメンバーの今後の金利見通しは12月の発表時より2015年末の金利見通しが大きく下方修正されており、FOMCは利上げを急がないというメッセージとして市場は好感しました。



## 1-2. 住宅関連指標

23日に中古住宅販売件数、24日に新築住宅販売件数と住宅関連指標の発表が続きます。両指標とも足元で伸びが鈍化しており、その傾向に変化があるか注目されます。

## 1-3. 消費者物価指数（CPI）

24日に2月の消費者物価指数（CPI）が発表されます。市場予想ではコア指数が前年同月比1.7%程度の上昇と予想されています。CPIが上振れすれば利上げの早期化、下振れすれば後ずれといった思惑が高まる可能性があります。

## 【2.欧州】

先週の欧州の主要な株価指数は上昇しました。ドイツのDAX指数は週間で140ポイント近い上昇で10週連続の値上がりとなり、株価は1万2000ポイントの節目を超えました。ユーロ安に伴う今後の企業業績の改善期待は強く、買い優勢の状況が継続しています。

### 2-1. 欧州経済研究センター（ZEW）景気予測指数

17日に発表された欧州経済研究センター（ZEW）景気予測指数は、62.4と前月の52.7から10ポイント近い大幅な改善を記録しました。ドイツを中心にユーロ圏の経済指標は足元で大幅な改善が目立っています。

### 2-2. ユーロ圏製造業購買担当者景気指数（PMI・速報値）

24日にユーロ圏の製造業購買担当者景気指数（PMI・速報値）が発表されます。市場予想では前月の51.0から51.5に改善すると見込まれています。

## 【3.日本】

先週の日本株式市場は、日経平均が6週連続で値上がりしました。日銀や年金基金の買い期待で下値不安が少なく、今後の景気回復による先高感強く日経平均は週間で300円超値上がりして1万9500円台を回復、2000年4月以来約15年ぶりの高値をつけました。

### 3-1. 金融政策決定会合

16日から17日にかけて日銀の金融政策決定会合が行なわれ、事前の予想通り金融政策の現状維持が決定されました。ただ、足元の物価推移について先月の会合後に発表した「0%台半ば」という表現から「0%台前半」という表現に下方修正されたことから今後の追加金融緩和期待がやや高まる結



果となりました。

### 3-2. 訪日外国人客数

18日に発表された2月の訪日外国人客数推計値は138万7000人と前年同月の88万人を大きく上回るとともに、単月の訪日客数として過去最高記録を更新しました。

### 3-3. 権利付き最終日

26日は3月末決算銘柄の権利付き最終日となっています。日経平均の配当落ち額は100円超と予想されています。

### 3-4. 全国消費者物価指数（CPI）

27日に2月の全国消費者物価指数（CPI）が発表されます。市場予想では生鮮食料品を除いたコア指数で前年比2.2%の上昇と消費税増税の影響2.0%を除くと0.2%の上昇にとどまると見られています。

## 【4.中国】

先週の中国株式市場は上海総合指数が11日以降8日続伸して3,600ポイントを突破しました。全人代は成長率目標の引き下げを発表しましたが、相次いで発表されてきた金融緩和を受け、今後も緩和政策が継続するとの期待が高まっているようです。

### 4-1. HSBC製造業購買担当者景気指数（PMI）速報値

24日に3月の製造業購買担当者景気指数（PMI）速報値が発表されます。市場予想では50.4と前月の50.7からの小幅の悪化が予想されています。

詳細レポートは以下をご参照ください。

- [日本][チーフ・ストラテジスト広木隆の「ストラテジーレポート」](#)
- [日本][シニア・マーケットアナリスト金山敏之の「投資のヒント」](#)
- [日本][フィスコの「週刊マーケット展望」\(ログイン後限定レポート\)](#)
- [日本][J.P.Morgan \(J.P.モルガン\) 社や TIW 社の「アナリストレポート」\(ログイン後限定レポート\)](#)
- [日本][主要日本企業決算カレンダー](#)



- [\[米国\] 主要米国企業決算カレンダー](#)
- [\[米国\] 米国株 Market Pick Up 今週の注目ポイント](#)
- [\[中国\] 中国株 Market Pick Up 今週の注目ポイント](#)
- [\[その他\] J.P.Morgan \(J.P.モルガン\) 社の、「マクロ経済レポート ウィクリー・データ・ウォッチ」「グローバル・データ・ウォッチ」\(ログイン後限定レポート\)](#)

## グローバル・マクロ・ビュー（世界経済の基本観）

### 1.日本（赤字が前回からの変更点）

日本銀行は現行の大規模金融緩和の継続を決定。物価の上昇率についての表現はやや下方修正、今後の日銀の姿勢に要注目。

### 2.米国（赤字が前回からの変更点）

FOMC は 6 月利上げのオプションを残しつつ、インフレ率や景気に配慮して利上げを急がない姿勢を示す。

### 3.欧州（前回からの変更なし）

ECB が量的金融緩和、国債購入を開始。ドラギ ECB 総裁は利回りがマイナス 0.2%以上の債券を購入することや当初の購入期限である 2016 年 9 月以降も物価上昇率次第では購入を継続する意向を発表。

### 4.新興国（前回からの変更なし）

中国の全人代で今年の GDP 成長率目標が 7.0%と昨年の 7.5%から引き下げられ、成長を追うよりも国有企業改革や金融市場の自由化など構造改革を優先する方針が鮮明に。



**利益相反に関する開示事項**

マネックス証券株式会社は、契約に基づき、オリジナルレポートの提供を継続的に行うことに対する対価を契約先証券会社より包括的に得ておりますが、本レポートに対して個別に対価を得ているものではありません。レポート対象企業の選定はマネックス証券が独自の判断に基づき行っているものであり、契約先証券会社を含む第三者からの指定は一切受けておりません。レポート執筆者、並びにマネックス証券と本レポートの対象会社との間には、利益相反の関係はありません。

- ・当社は、本レポートの内容につき、その正確性や完全性について意見を表明し、また保証するものではありません。
- ・記載した情報、予想および判断は有価証券の購入、売却、デリバティブ取引、その他の取引を推奨し、勧誘するものではありません。
- ・過去の実績や予想・意見は、将来の結果を保証するものではありません。
- ・提供する情報等は作成時現在のものであり、今後予告なしに変更又は削除されることがございます。
- ・当社は本レポートの内容に依拠してお客様が取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。
- ・投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断と責任でなさるようお願いいたします。
- ・本レポートの内容に関する一切の権利は当社にありますので、当社の事前の書面による了解なしに転用・複製・配布することはできません。

マネックス証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第165号  
加入協会: 日本証券業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、  
一般社団法人 日本投資顧問業協会